

ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2023年10月31日時点)

▶ **ウクライナ軍**が南部及び東部の露軍に対する攻撃を強化する一方、**露軍**は、各正面において**防御戦闘を実施**するとともに、各地の**軍事・非軍事施設**に対する攻撃を継続している模様。

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: 死者約12万人、負傷者約18万人 (NYT8月18日)
: 死者約20万8,000人 (「ウ」軍東部作戦管区報道官6月3日)
「ウ」軍: 死者約7万人、負傷者約12万人 (NYT8月18日)
: 死傷者推定10万人以上 (クリストファーセン「ノ」軍参謀総長1月22日)
「ウ」市民: 死者9,806人以上、負傷者1万7,962人以上 (UNOCHA10月8日)

- 「ウ」軍報道官は、東部アウディウカにおける10月10日以降の露軍の死亡者数が5,000人に達すると指摘(10月26日)
- カービー米NSC調整官は、「露軍がアウディウカ、リマン、クピャンスクを含む複数正面で新たな攻勢を開始した」とした上で、「10月11日以来、露軍はアウディウカで装甲車両125両と1個大隊分以上の装備を喪失したものの、攻勢は継続すると予想している」との見方を提示(10月26日)
- ゼレンスキー大統領は、「露軍はアウディウカ包囲を何度も試みたが「ウ」軍が阻止し、露軍は少なくとも1個旅団を喪失」と発言(10月27日)

- 「ウ」国防省は、「ウ」国防相がデンマーク国防相と会談し、両者が「ウ」空軍への早急なF-16戦闘機供与のための行動計画に合意したと発表(10月25日)
- 米CNNは、米アリゾナ州で少数の「ウ」パイロットがF-16の訓練を開始したと報道(10月26日)
- 「ウ」メディアは、キーウ、オデーサ、ドニプロなどで軍関係者の親族らによる動員解除を求めるデモが行われ、18か月の勤務で動員を解除する法律の制定が要求されたと報道(10月27日)
- ベラルーシのルカシエンコ大統領は、現在の戦況が膠着状態にあるとした上で、両国が戦争終結に向けた交渉を行う必要がある旨発言(10月29日)
- ショイグ露国防相は、北京で行った演説で、「ロシアは、ウクライナでの紛争後の解決策と、西側とのさらなる共存について、現実を踏まえて政治的に議論する用意がある」と発言(10月30日)

- 露独立系メディアは、露国防省傘下の民間軍事会社が、「ウ」への戦闘派遣部隊に女性の戦闘専門職種の募集を開始すると報道(10月27日)
- 露国防省は、露南部クルスク州の原子力発電所付近での「ウ」軍無人機攻撃を阻止したとした上で、被害はなく放射線レベルも安定と発表(10月27日)
- 米紙NYTは、ソ連製防空システム「Buk-M1」と米軍製ミサイル「AIM-7」を組み合わせた「フランケン」SAMを米国が生産していると報道。また、旧式の「ウ」国内製造レーダーと「ペトリオット」ミサイル及び発射機を連結させた、より強力なSAMについても試験中で、今年の冬にも提供される予定と報道(10月28日)

- 主要都市(下線は州都)
- ☀ 露軍による攻撃が報じられた主な地点(接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- 👉 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- 👈 ウクライナ軍が奪還した地域



国土地理院標準地図を加工

資料源: ウクライナ政府機関ウェブサイト、ロシア大統領府ウェブサイト、ISW等